

第6学年国語科学習指導案

日 時 平成18年11月2日(木) 授業I

場 所 6年2組教室

児 童 男子14名 女子13名 計27名

指導者 小原 和弘

1 単元名 生き方や考え方を読み取ろう (光村図書 6年下)

教材名 「海の命」

2 単元について

(1) 教材について

本教材は、海という自然を舞台に、主人公「太一」の少年期から青年期までを描いた物語である。この物語のベースに流れるものは、海に生きる男たちの海に寄せる熱い思いと、自然と共に生きようとする人間の謙虚な姿である。海の男として生まれた太一が父の死を乗り越え、瀬の主との対峙を経て、父をしのぐ漁師へと成長していく姿が、感動的に描かれている。

この物語は6つの場面で構成されている。この構成をとらえた上で、太一的心情の変化を読み取ったり、他の人物との関係を捉えたりしながら、作品の山場をじっくりと読み取ることができるであろう。また、一人の人間の成長には周囲の人間の存在が大きくかかわってくることや、主人公太一にとっての海やクエのように、人間の成長の過程にはなんらかの影響をもつ事物や事象があることに気付かせていきたい。

(2) 児童について

児童はこれまでに、「カレーライス」では同年代の主人公の心の揺れに共感したり、心情の変化をとらえたりしながら学習してきた。また「やまなし」では優れた表現を読み味わい、情景のイメージを豊かに広げることが学習してきた。これらの学習を通して、児童は大切な言葉に着目しながら叙述に即して正しく読み取ろうとしたり、優れた表現からイメージを広げ自分なりに情景を想像しながら読み取ろうとしたりするようになってきた。しかし、書き手が言葉や表現に込めた深い思いに迫ったり、登場人物の関係や言動から主題につなげたりする読みはまだ十分に出来ない。音読や視写・一人学びなどに取り組む態度は全体的にかなり身に付いてきた。だが、視写の速さや正確さ、一人学びの内容など、技能や読みの力の個人差が大きい。

(3) 指導にあたって

高学年の「読むこと」の指導目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」ことである。また物語教材の指導内容は、「登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。」である。

そこで本単元では、主人公太一が、海や登場人物とのかかわりの中でたくましく成長していく姿を読み取らせていく。その際、特にも登場人物の会話文に着目させ、その意味を考えさせていきたい。また、視写をもとに大事な言葉や優れた表現にサイドラインを引いたり書き込みをさせたり、学びあう活動をしたりしながら、読みを深められるようにしていきたい。そして、「海の命」という題名と関連させながら、主題に迫っていきたいと考える。

3 単元の目標

(1) 関心・意欲・態度

- 「海の命」について考えようとするとともに、関連図書などから命や自然について考えを広げようとする。
(読ア)

(2) 読むこと

- 登場人物の心情や場面についての描写など優れた叙述に気を付けながら、主人公「太一」が成長していく姿を読み取ることができる。
(読ウ)

(3) 言語事項

- 情景描写や人物の心情を表す言葉をとらえることができる。
(言ウ(エ))

4 指導計画 (11時間)

| 段階 | 時間 | ねらい | 学習活動 | 具体的評価規準 |
|-------|-----------|--|---|--|
| つかむ | 1 | ・全文を読んで、これからの学習に関心を持つ。 ・新出漢字や難語句を確認する。 | ・全文を通読し、簡単な感想を持つ。 ・新出漢字や難語句を確認する。 | (関)太一の生き方や成長に興味を持ち、進んで感想を持つとうとしている。 |
| | 2 (本時) | ・全文を読んで、あらすじをつかむ。 | ・全文を通読し、ポイントになる語句をおさえ、場面分けするなどして、文章全体を単純化する。 | (読)太一の成長を表す言葉に着目しながら、あらすじをつかむことができる。 |
| | 3 | ・全文を読んで、学習の見通しを持つ。 | ・全文を通読し、学習の見通しを持つ。 | (読)学習の見通しを持つことができる。 |
| たしかめる | 4 | ・村一番の漁師であった父に対する太一の尊敬の気持ちを読み取る。 | ・海に対する太一の強いあこがれをつかむ。 ・太一が尊敬する父の姿や考え方を読み取る。 | (読)村一番の漁師であった父に対する太一の尊敬の気持ちを読み取ることができる。 |
| | 5 | ・与吉じいさに弟子入りし、父と同じような与吉じいさの考えにふれた太一の気持ちを読み取る。 | ・与吉じいさに無理やり弟子入りした太一の気持ちをつかむ。 ・与吉じいさの言葉の意味を考え、与吉じいさの考え方を読み取る。 | (読)与吉じいさに弟子入りし、父と同じような与吉じいさの考えにふれた太一の気持ちを読み取ることができる。 |
| | 6 | ・与吉じいさの死に直面したときの太一の気持ちを読み取る。 | ・太一や与吉じいさの言葉の意味を考え、太一の気持ちや成長した姿を読み取る。 | (読)与吉じいさの死に直面したときの太一の気持ちを読み取ることができる。 |
| | 7 | ・母の悲しみを背負いながらも瀬にもぐり続ける太一の気持ちを読み取る。 | ・母の言葉に対しての太一の気持ちをつかむ。 ・母の悲しみを背負いながらも瀬にもぐり続ける太一の思いの強さを読み取る。 | (読)母の悲しみを背負いながらも瀬にもぐり続ける太一の気持ちを読み取ることができる。 |

| | | | | |
|------|----|------------------------------|---|--------------------------------------|
| | 8 | ・巨大なクエにもりを打たなかった太一の気持ちを読み取る。 | ・巨大なクエに出会ったときの太一の様子や気持ちをつかむ。 ・漁師としてまた成長した太一の姿を読み取る。 | (読)巨大なクエにもりを打たなかった太一の気持ちを読み取ることができる。 |
| | 9 | ・父親になった太一の姿から太一の生き方を読み取る。 | ・「千びきに～」という叙述から太一の生き方を読み取る。 | (読)父親になった太一の姿から太一の生き方を読み取ることができる。 |
| まとめる | 10 | ・「海の命」という題名について考え、作品の主題をつかむ。 | ・「海の命」という題名が何を表しているか作品全体から考え、主題をつかむ。 | (読)題名が表しているものを考え、作品の主題をつかむことができる。 |
| ひろげる | 11 | ・立松和平の他の作品を読み、感想を持つ。 | ・「海の命」と比べながら読み、考えを広げる。 ☆山のいのち ポプラ社 ☆川のいのち くもん出版 ☆田んぼのいのち くもん出版 | (関)進んで他の作品を読もうとしている。 |

5 本時の指導

(1) ねらい

- ・太一の成長を表す言葉に着目しながら、あらすじをつかむことができる。

(2) 展開

| 段階 | 学習内容・教師の働きかけ | 期待する児童の反応 | 留意点・評価 |
|-----------|--|--|---|
| つかむ 3分 | 1 学習課題の確認 太一の成長を表す言葉を手がかりにして、あらすじをつかもう。 | | ・課題を書き終えたら、ノートを閉じさせる。 |
| たしかめる | 2 課題解決への取り組み (1)学習場面の音読 ○太一の年令や成長したことが分かりそうな言葉に気を付けながら聞きましょう。 (2)学習場面の読み進め ○この物語の題は何ですか。 ○いくつの場面がありましたか。 ○主人公は誰ですか。 ○太一が子どものころから、いつまでの話ですか。 | ・順番読み(場面ごと) ・海の命 ・6つ ・太一 ・一生 | ・全文を場面ごとに読ませる。 ・「生涯」という言葉に着目させる。 |

| | | | |
|--|---|--|--|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">たしかめる</p> | <p>(3)視写</p> <p>○太一の年令や成長したことが分かりそうな言葉をさがして書きましょう。</p> <p>○一人学び (作業が進んでいる児童のための手立て)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 見直す。</p> <p>2 意味の分からない言葉を丸で囲む。</p> <p>3 太一の他に各場面に登場した主な人物を書く。</p> </div> <p>(4)学び合い</p> <p>○太一の年令や成長したことが分かりそうな発表しましょう。</p> <p>○子どもころ、太一がいつも一緒にいた人は誰ですか。</p> <p>○中学校を卒業する年の夏、太一はどうしましたか。</p> <p>○与吉じいさはどうなりましたか。</p> <p>○太一は誰の悲しみを背負っているのですか。</p> <p>○瀬にもぐり続けていた太一は、何に会いましたか。</p> <p>○太一は何になりましたか。</p> <p>○1～6の場面を2つに分けましょう。</p> <p>○3～6も2つに分けましょう。</p> | <p>1 子どもころ</p> <p>2 中学校を卒業する年の夏</p> <p>3 弟子になって何年もたったある朝</p> <p>4 屈強な若者</p> <p>5 ほぼ一年が過ぎ</p> <p>6 けっこん</p> <p>・父</p> <p>・与吉じいさの弟子になった。</p> <p>・死んだ。</p> <p>・母。</p> <p>・クエ</p> <p>・父になった。</p> <p>・1, 2と3～6</p> <p>・3, 4と5, 6</p> | <p>・ノートを開かせる。</p> <p>評 太一の年令や成長が分かりそうな言葉を書くことができたか。</p> <p>・机間巡視をし、作業の進まない児童に声がけをする。</p> <p>・各場面ごとに確認する。</p> <p>・登場人物を確認する。</p> <p>・子ども頃と大人という視点で2つに分けさせる。</p> <p>・太一の考えが変わり、さらに成長したという視点で2つに分けさせる。</p> |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめる 2分</p> | <p>3 学習のまとめ</p> <p>○まとめの音読をしましょう。</p> <p>4 次時の学習内容確認</p> <p>○次時は学習の見通しを持ちましょう。</p> | <p>・一斉読み（板書）</p> | |

(3) 具体の評価規準と支援の手立て

| 太一の成長を表す言葉に | A | B | 支援の手立て |
|------------------------|---|------------------------------------|--|
| 着目しながら、あらすじをつかむことができる。 | ・太一の年令や成長したことが分かりそうな言葉と登場人物を読み取ることができる。 | ・太一の年令や成長したことが分かりそうな言葉を読み取ることができる。 | ・各場面の最初の文章に着目させたり、机間巡視の際、適切に声がけをしたりする。 |

(4) 板書計画

| | |
|---|--|
| <p>一 子どものころ 父の死</p> <p>二 中学校 与吉じいさに弟子入り</p> <p>三 弟子になって何年もたった 与吉じいさの死</p> <p>四 屈強な若者 母親 父の海にもぐる</p> <p>五 ほぼ一年 クエ</p> <p>六 けっこん 父になる</p> | <p>海の命</p> <p>立松 和平</p> <p>太一の成長を表す言葉を手がかりにして、あらすじをつかもう。</p> |
|---|--|